

2006年度(平成19年3月期) 第54期 決算説明会

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

Tokyo Cathode Laboratory Co., Ltd.

©Copyright 2007 TCL All rights reserved

Contents

- 【連結】業績比較と2007年度予想
- 【連結】売上推移と2007年度見通し
- 3. セグメント別比較
- 4. セグメント別年度推移
- 5. 設備投資額・減価償却費・研究開発費

【連結】業績比較と2007年度予想

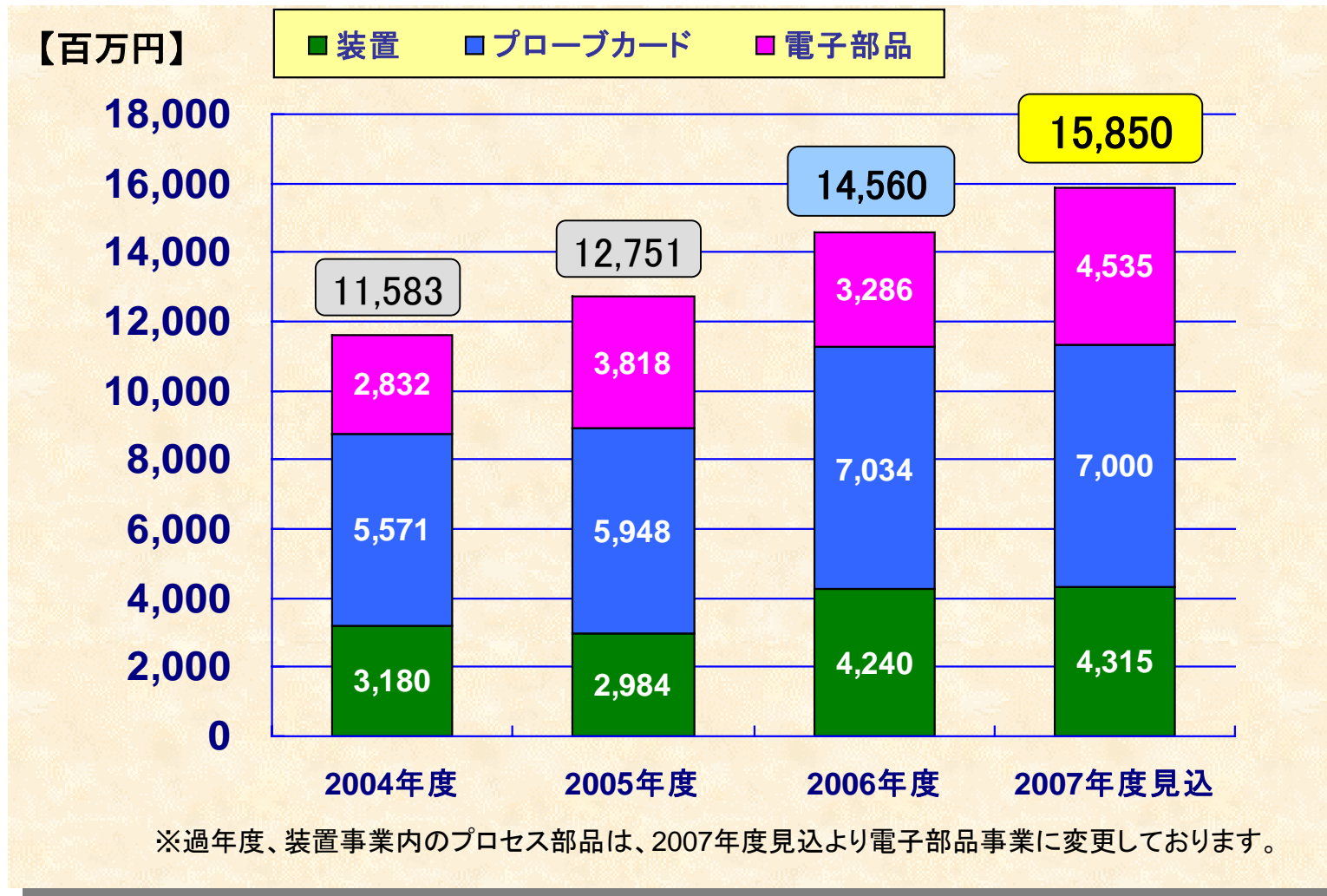
【連結】 区 分	平成18年3月期 【実績】		平成19年3月期 【実績】		対前年比	
	金額(百万円)	百分比 (%)	金額(百万円)	百分比 (%)	増減(百万円)	増減率 (%)
売 上 高	12,751	100.0	14,560	100.0	1,809	14.2
売 上 原 価	8,971	70.3	10,313	70.8	1,342	15.0
売 上 総 利 益	3,779	29.7	4,247	29.2	467	12.4
販売費及び一般管理費	3,352	26.3	3,279	22.5	△ 72	△ 2.2
営 業 利 益	427	3.4	968	6.6	540	126.3
経 常 利 益	518	4.1	1,019	7.0	501	96.7
当 期 純 利 益	238	1.9	459	3.2	220	92.7

<連結業績予想>

(単位:百万円)

発表日	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2007年5月15日発表	15,850	1,041	1,090	600

2. 【連結】売上推移と2007年度見通し

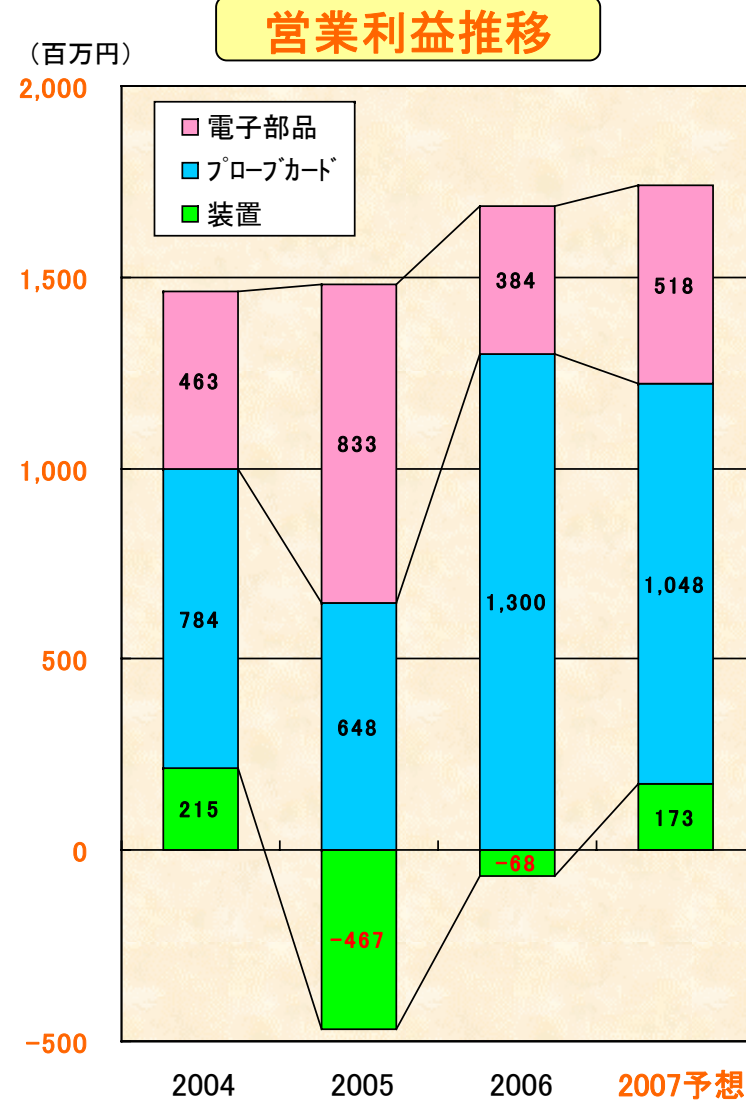
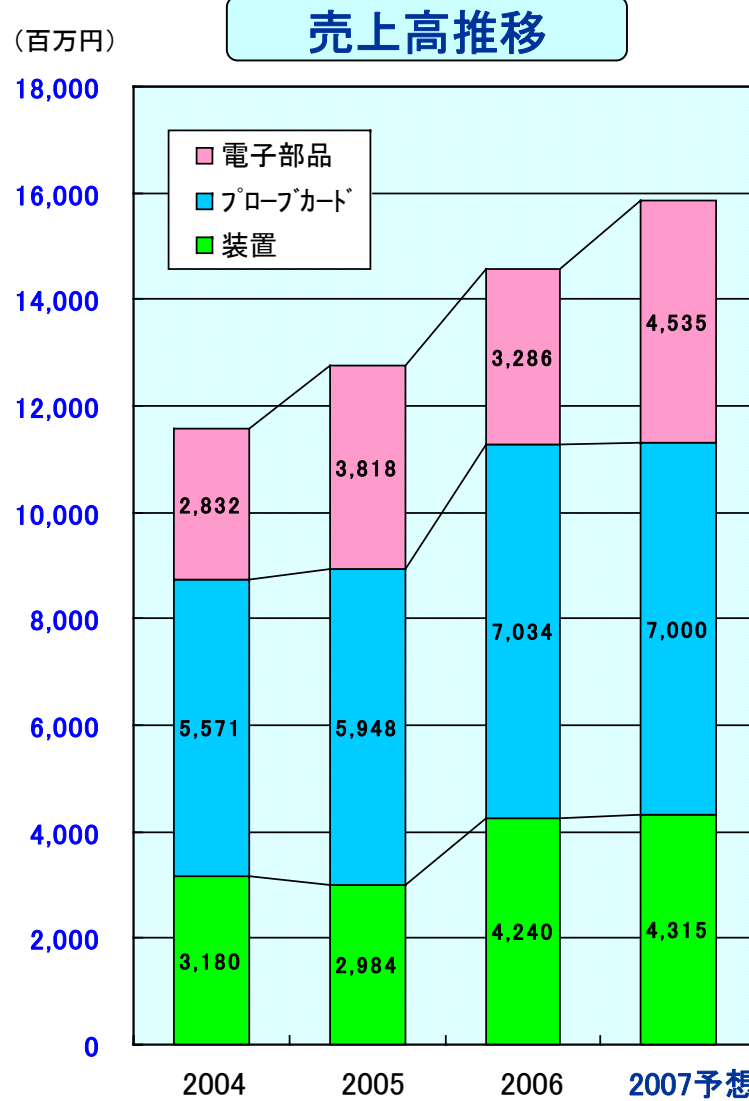


3. 【連結】セグメント別比較

(単位:百万円、%)

セグメント		平成17年3月期	平成18年3月期	平成19年3月期		平成20年3月期	
		実績	実績	実績	対前年比	<予想>	伸長率
電子部品事業	売上高	2,832	3,818	3,286	86.1%	4,535	38.0%
	営業損益	463	833	384	46.1%	518	34.6%
	利益率	16.3%	21.8%	11.7%		11.4%	
プローブカード事業	売上高	5,571	5,948	7,034	118.2%	7,000	-0.5%
	営業損益	784	648	1,300	200.7%	1,048	-19.4%
	利益率	14.1%	10.9%	18.5%		15.0%	
装置事業	売上高	3,180	2,984	4,240	142.1%	4,315	1.8%
	営業損益	215	-467	-68	14.7%	173	-
	利益率	6.8%	-15.7%	-1.6%		4.0%	
(小計)	売上高	11,583	12,751	14,560	114.2%	15,850	8.9%
	営業損益	1,462	1,014	1,616	159.3%	1,739	7.6%
消去又は全社	売上高	-	-	-		-	
	営業損益	-579	-586	-648		-698	
合計	売上高	11,583	12,751	14,560	114.2%	15,850	8.9%
	営業損益	883	427	968	226.3%	1,041	7.5%
	利益率	7.6%	3.3%	6.6%		6.6%	

4. 【連結】セグメント別年度推移



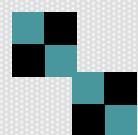
5. 設備投資額・減価償却費・研究開発費

【連結】	平成18年3月期 【実績】(百万円)	平成19年3月期 【実績】(百万円)	増減額 (百万円)
設備投資額	1,360	※① 633	△ 727
減価償却費	550	585	34
研究開発費	560	449	△ 111

平成20年3月期 ＜計画＞(百万円)
※② 630
500
500

主な内容 ※①: 親会社
機械装置他 98百万円
子会社
建物・機械装置他
内田工業(株) 273百万円
MICRO HIGH TECH 90百万円
東京探針 機械装置他 63百万円

※②: 親会社
機械装置他 195百万円
子会社
東針電子
機械装置他 245百万円



2006年度決算報告 電子部品事業

Tokyo Cathode Laboratory Co., Ltd.

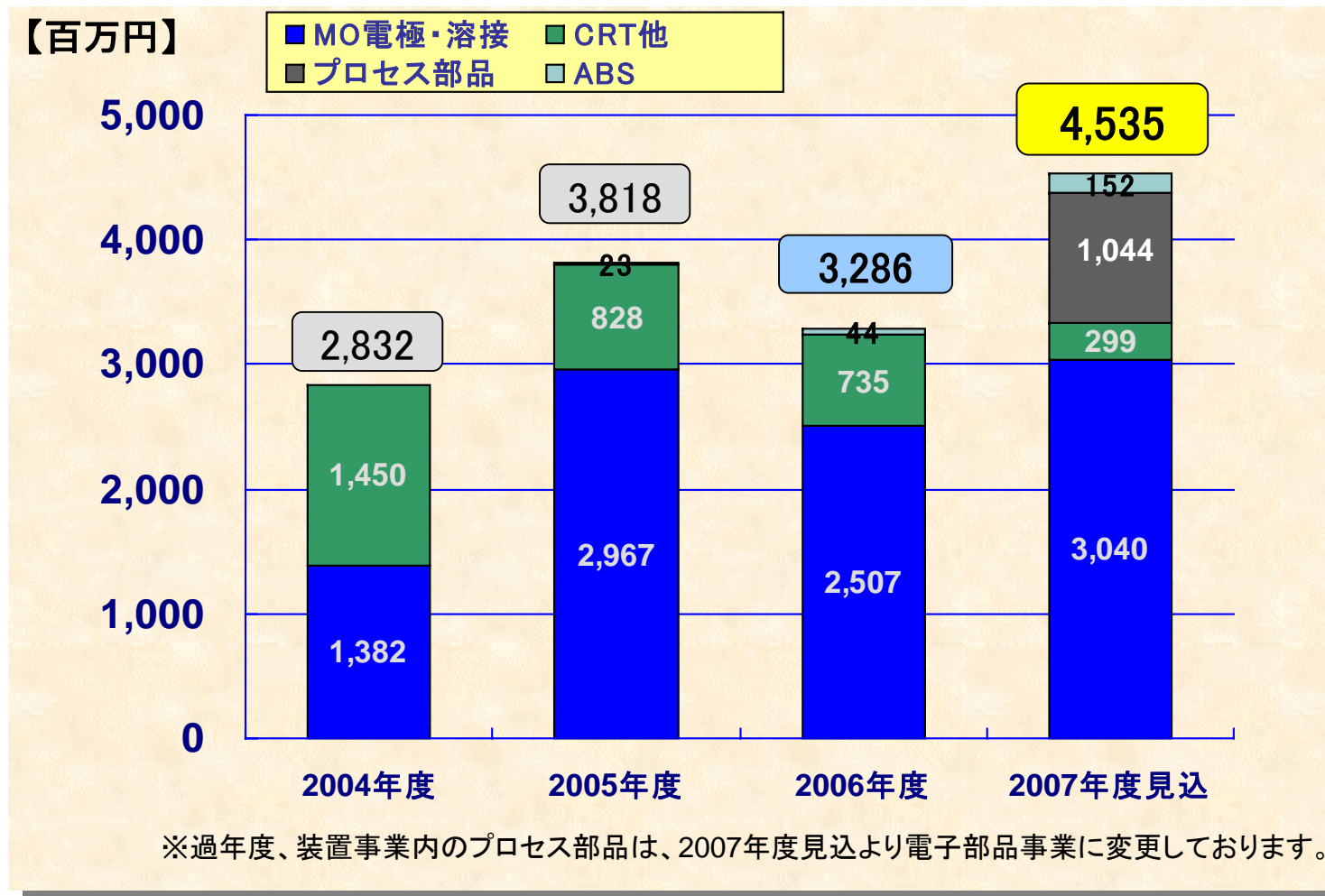
©Copyright 2006 TCL All rights reserved

Contents

1. 【連結】売上推移と2007年度見通し
2. 今後の見通しと市場動向

1. 【連結】売上推移と2007年度見通し

電子部品事業



2. 今後の見通しと市場動向

プロセス部品の主な製品

* エッチャー用電極

用途: エッチング工程にて、アノード電極(シャワーヘッド)として、使用

客先: T社等半導体(DRAM・フラッシュメモリー等)量産ライン(6インチ、8インチ)にて使用頂いております。2007年度は、フラッシュメモリー価格の急落の影響が大きく、対前年度20%ダウンの見通しです。

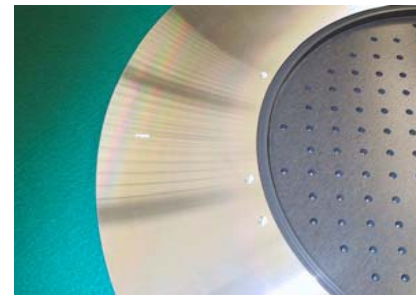
* エッチャー用Siフォーカスリング

用途: エッチング工程にて、シリコンウエハーの外周部にSETして、使用

客先: フラッシュメモリー等Φ300mm量産ラインにて、2007年下期より、導入見込み。2008年度には、2007年度の3倍以上の売上を見込んでおります。

【売上実績/計画】

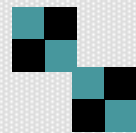
品名	2006年度	2007年度
エッチャー用AL・Si電極	10億	8.5億
エッチャー用Siリング	0	1.5億



Al電極



Si リング



2006年度決算報告 プローブカード事業

Tokyo Cathode Laboratory Co., Ltd.

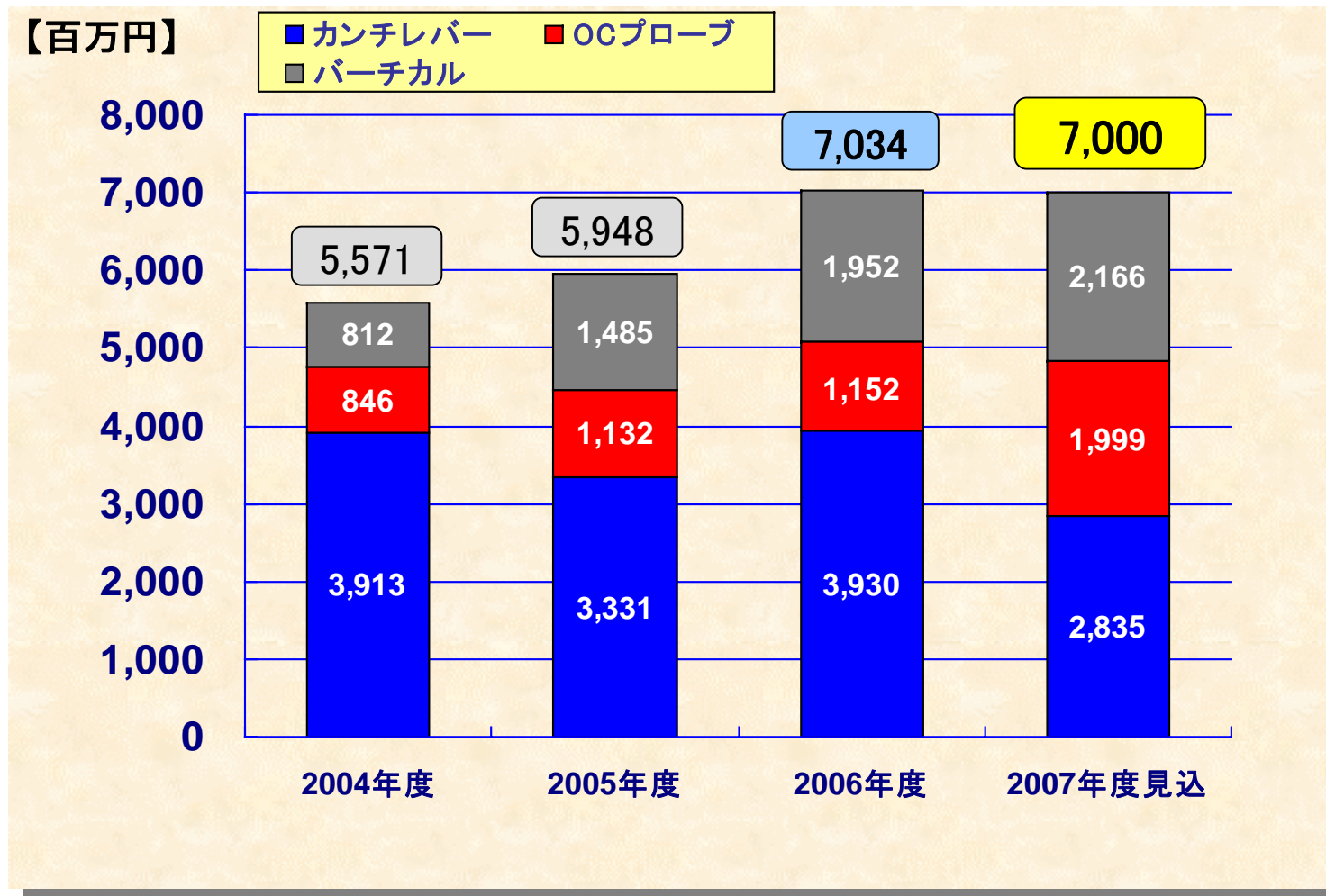
©Copyright 2006 TCL All rights reserved

Contents

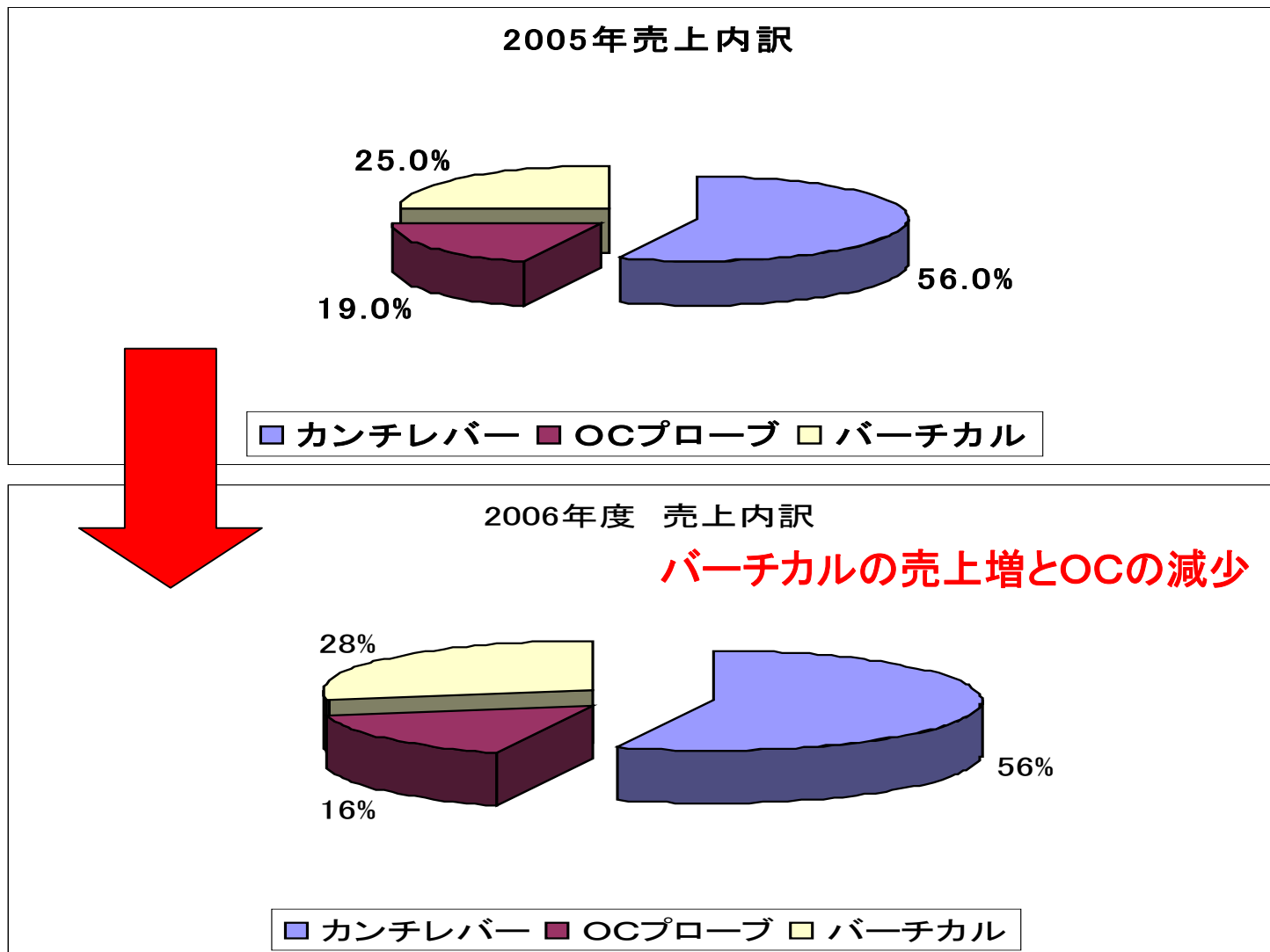
1. 【連結】売上推移と2007年度見通し
2. 主要製品別状況
3. プローブカード事業分析

1. 【連結】売上推移と2007年度見通し

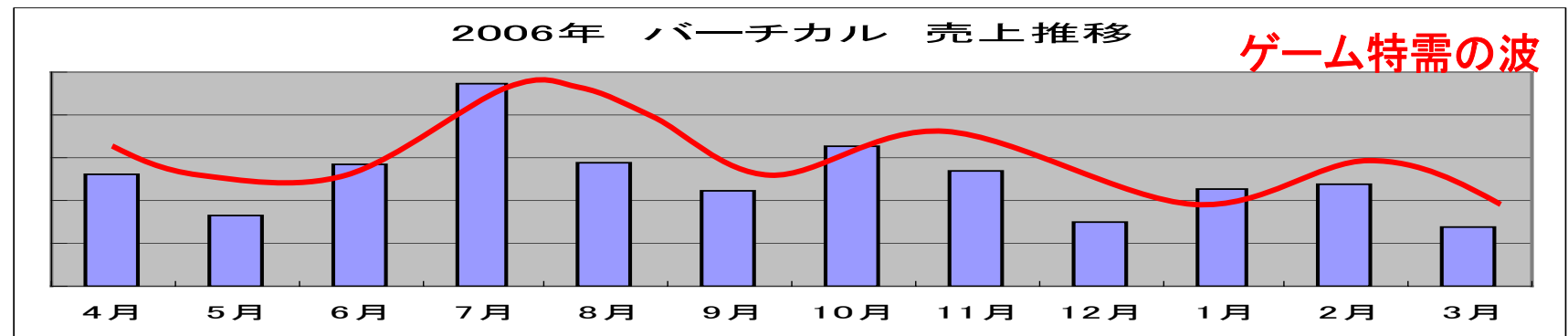
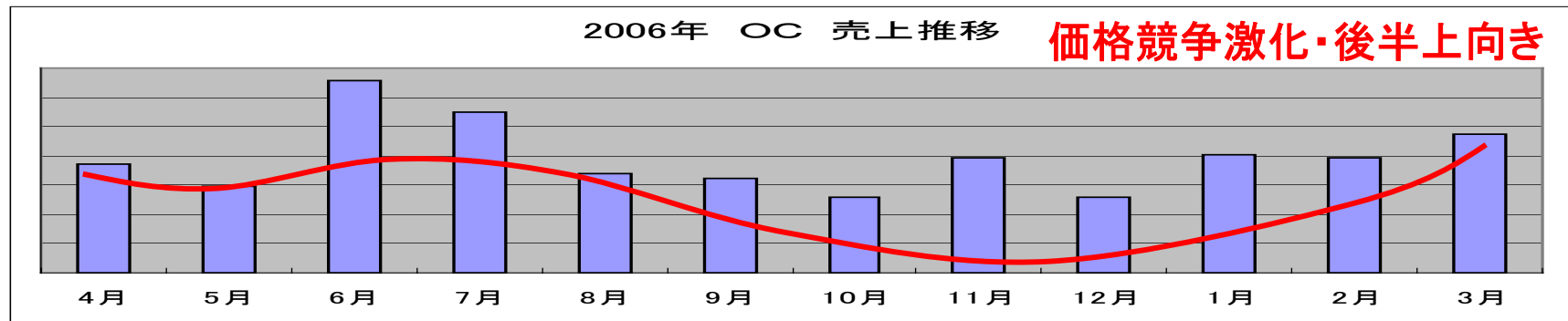
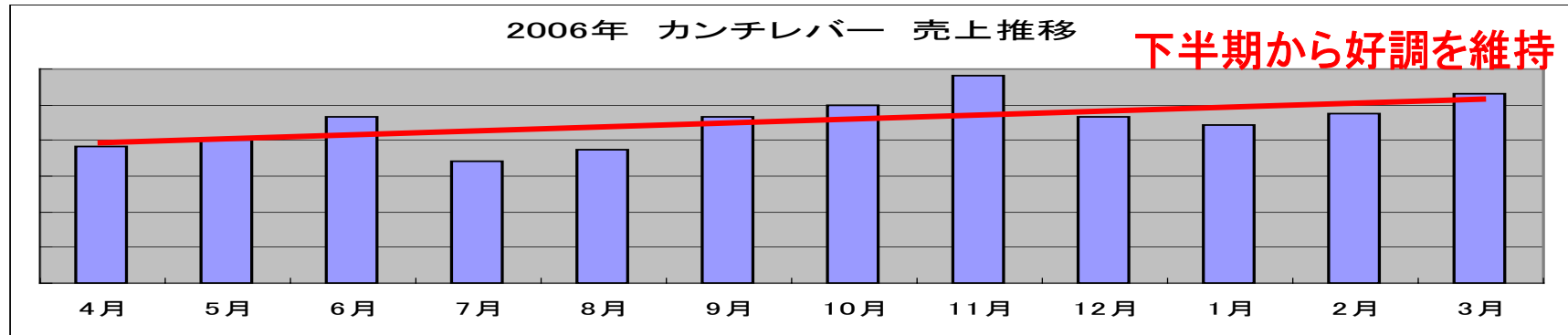
プローブカード事業



2. 主要製品別進捗状況①



2. 主要製品別進捗状況②



3. プローブカード事業分析

— 2006年度 市場動向

(カンチレバー)

- * 受注・売り上げは順調。
- * LCDドライバーはOCプローブによりすべての国内LCDドライバーメーカーへ展開済み。
但し、価格競争があり、単価が下がりつつある。在庫調整も終わりに近づき活況となりつつある
- * ASICは車載用、デジタル家電を中心に堅調。

(パーティカル)

- * ゲーム機(CPU)の需要が強く、デジタル家電(システムLSI)等と共に売上増大。

— 2007年度の対応

(カンチレバー)

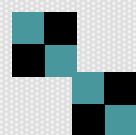
- * SoCの多PINカードが好調。
- * OCの価格競争に対応するために、原価低減活動を強化。

(パーティカル)

- * FLASHでの多DUT・広範囲のカード、及び狭ピッチ品の展開。

(新製品)

- * アルミパッド用メンテナンスフリーのACプローブの量産開始。



2006年度決算報告 装置事業

Tokyo Cathode Laboratory Co., Ltd.

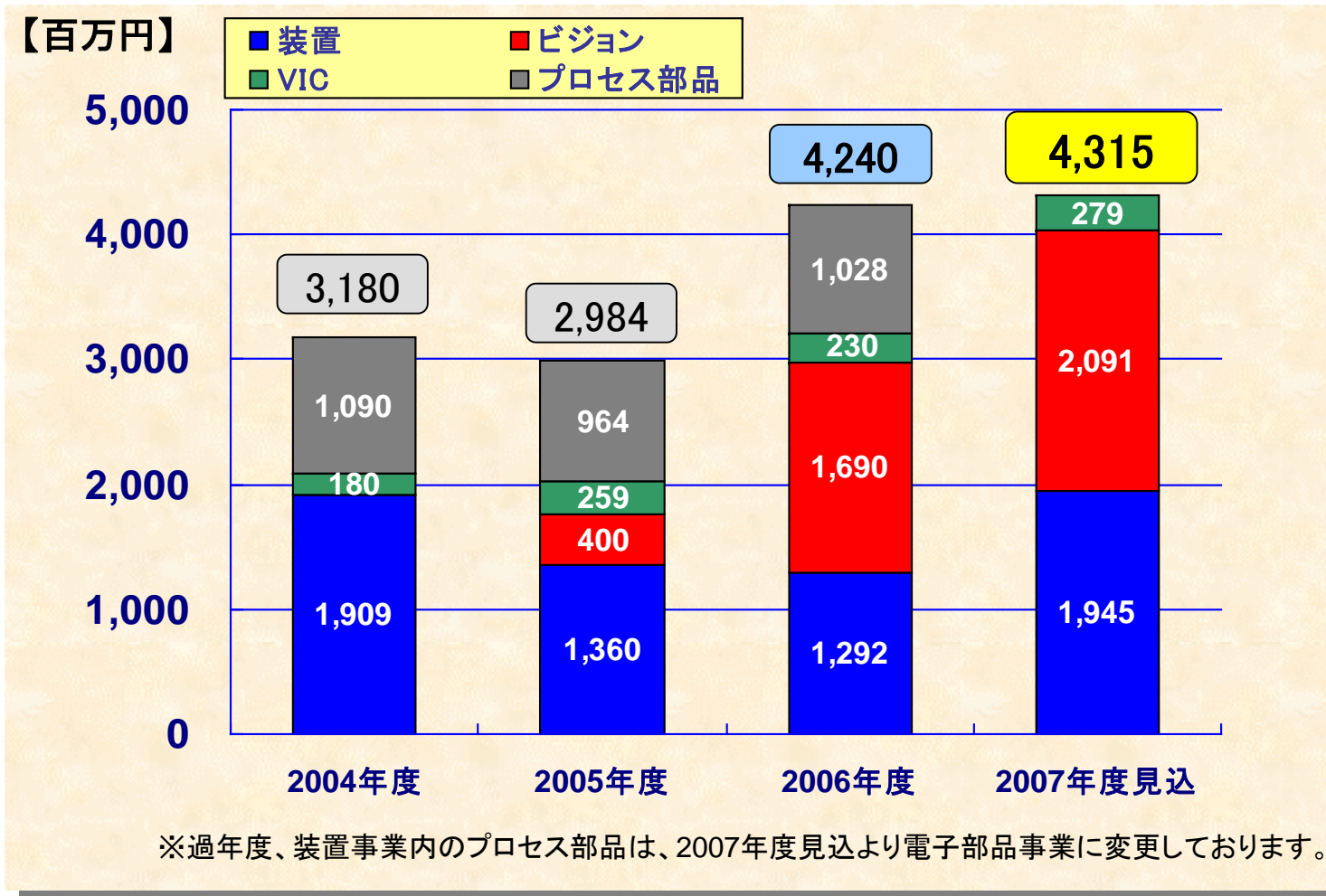
©Copyright 2006 TCL All rights reserved

Contents

1. 【連結】売上推移と2007年度見通し
2. 主要製品別進捗状況
3. 今後の見通しと市場分析
4. 今後の事業戦略

1. 【連結】売上推移と2007年度見通し

装置事業



2. 主要製品別進捗状況

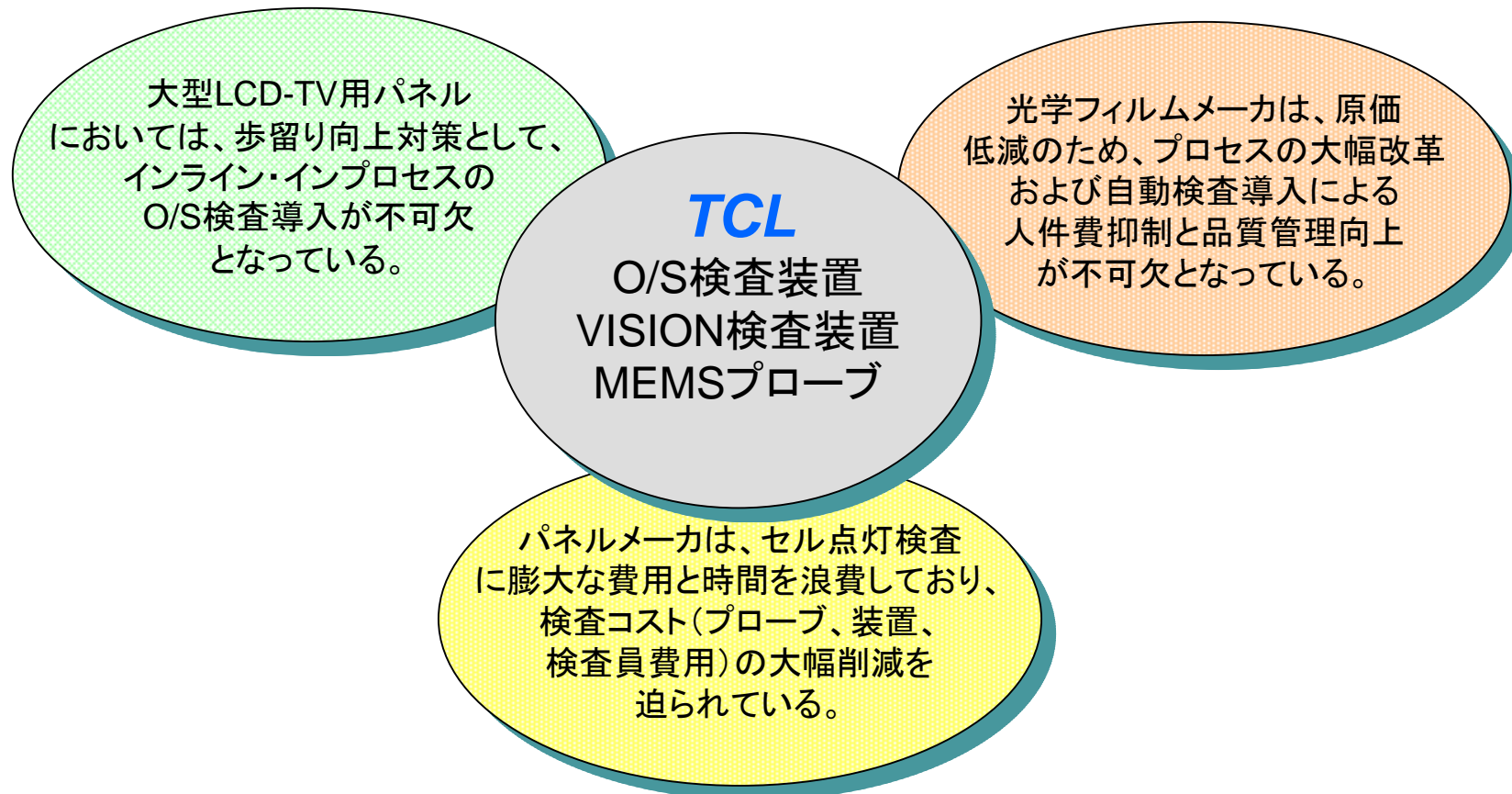
- **LDAS+ (非接触Open/Short検査システム)**
 - 国内LCDメーカー向けG8装置の受注に成功
 - 国内PDPメーカー向け装置受注に成功
 - 韓国LCDメーカーにて評価を開始
 - 台湾LCDメーカーがO/Sインライン検査導入を決定

- **VISION (画像処理) 検査装置**
 - 光学フィルムメーカーへのビジネス拡大に成功
 - 国内LCDメーカー向けG8用AOIの受注に成功
 - LCDセル点灯自動検査装置の評価拡大

- **C30/VIC (セル検査用プローブ)**
 - ファインピッチ対応新製品:C30 (MEMS技術採用)の開発が完了し、本格的な受注活動に入る。
 - 事業の効率化のため、本事業を韓国子会社のMH-Techに全面移管。

3. 今後の見通しと市場分析

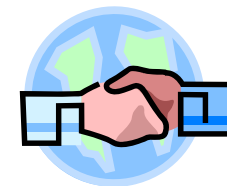
- LCD-TVの価格急落を受け、パネルメーカーは大幅な原価低減策として、プロセスの見直し、部材コスト低減および歩留り向上に注力している。



4. 今後の事業戦略

- **O/S検査システムの事業拡大**
 - 市場規模の急拡大に伴う、海外営業体制の大幅強化
 - 市場シェア拡大のため、大幅な開発人員増強と性能の大幅向上
 - 高速リペアシステムとのインテグレーションとアレイ検査機能への拡大
- **VISION検査システムの拡大**
 - 光学フィルム全般への事業拡大
 - 完全自動セル自動検査システム(点・線、ムラ欠陥)の開発
- **新規事業分野への積極投資**
 - 商品開発部の設立と新規事業への2007年度参入

ご清聴ありがとうございました。
今後も引き続き、ご支援よろしくお願いたします。



本資料の取り扱い上の注意

本資料に含まれる本年度見通しに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した数値であり、多分に不確定要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等は、業況の変化等により、記載した予想数値と異なる場合がありますことをご了承ください。